

学校名	研究課題	研究手法
安原小学校	社会・生活	地域人材の活用

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 認める学級・教科経営

- ・児童に内在化されるためのルールづくり「まなびっ子5」
- ・温かな雰囲気を作り出す「認め合いの言葉」
- ・ファシリテーター型リーダーシップ

(2) 重点2 主体的・対話的な学びのための手だて

- ・単元を通す手だて
- ・「つかむ」における主体的な姿を生む手だて
- ・「考える」における全員が考えを持てる手だて
- ・対話的な姿を生む手だて
- ・地域人材の活用

2 取組の検証

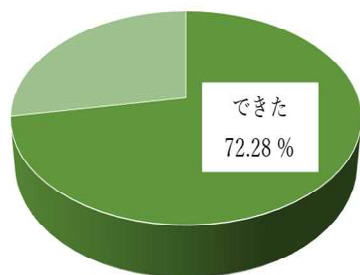
重点1：認める学級・教科経営の取組として、「まなびっ子5」「認め合いの言葉」という取組を1年間継続して実施した。教員アンケート「『まなびっ子5』が身につくよう粘り強く指導している」という項目の結果は、右のようになった。

「まなびっ子5」が身につくよう粘り強く指導している。
 ・よくあてはまる…58%
 ・あてはまる……42%

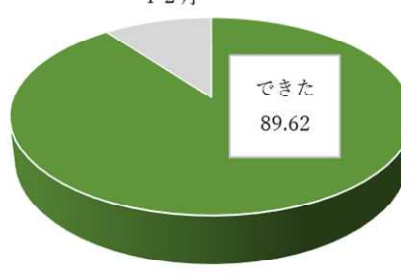
また、児童アンケート「学級・学校は楽しい」という項目については肯定的な評価の割合が学校全体で92%という結果であった。

重点2：主体的・対話的な学びのための手だてとして、特に「課題設定の工夫」と「自分の考えをもつ」場面を大切にしてきた。その結果、「課題に対して自分の考えをもつことができた」という児童アンケートの4月・12月の結果は以下のようになった。

課題に対して自分の考えをもつことができた 4月



課題に対して自分の考えをもつことができた 12月



4月には「考えをもつことができた」と答えた児童が全校の72.3%であったが、12月には89.6%という結果となった。

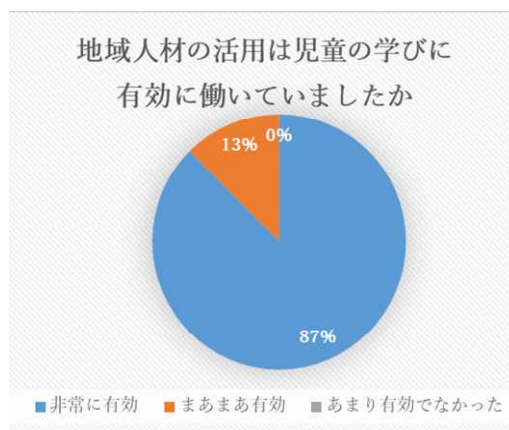
さらに、地域人材の活用においては、人材の発掘・授業や単元のどこに登場させるか・どのように登場させるかということを考え、研究を進めてきた。児童アンケート「地域を学ぶ学習を通して、地域の良さを見つけることができた」という項目について、肯定的な評価の割合が学校全体で92%であった。

10月18日に行った公開研究発表会では、13学級で授業を公開し、参観者に広く意見を求めた。

「地域人材の活用は児童の学びに働いていましたか」というアンケートの結果は右のようになった。

また、コメントには以下のような意見があった。

- ・地域人材を生かして単元計画がたてられていることがとても素晴らしく、うらやましく感じました。
- ・ゲストティーチャーにしか伝えられないことがあると子ども達の反応から実感しました。
- ・ゲストティーチャーを活用したことで子ども達はとても興味津々で意欲的に発表できていたと感じました。



3 成果と課題

大きな成果としては3点ある。

- (1) 認め合う視点が育ったこと。
 - ・各学級において「認め合いの言葉」や「まなびっ子5」といった共通の取組を実施したことにより、教員同士で指導の視点を揃えることができた。
 - ・教員の褒める視点が揃っていることで、児童同士も互いの良い行動を認め合い、それを「認め合いの言葉」を使って表現できるようになってきた。
- (2) 「自分の考えを持つことができる」児童の割合が増えたこと。
 - ・自分の考えをもち、それを全体に伝えようと、主体的に学びに向かう児童の姿が多く見られるようになった。
 - ・校内自作検定（漢字計算90点以上合格）の合格率も、9月と比べ、1月はわずかではあるが向上した。
- (3) 地域人材の授業での活用の手立てが増えたこと。
 - ・直接授業に来ていただくだけでなく、教師がインタビューした内容をまとめた資料を作成して提示したり、書いていただいたお手紙を、授業に登場させたり、インタビューの動画資料を提示したりするなど、さまざまな方法で人材を活用することができた。

それぞれの学年で、新たな地域人材を発掘したり、授業での活用法の工夫を行ったりしてきたが、それが教科のねらいに迫れていたかに課題が残る。

今後は、それぞれの単元において、児童に身につけさせる力を教師自身が明確にもち、資料提示の工夫や、授業の中での問い返し、深めの発問の精選などについて研究していく必要がある。